

公益財団法人ひょうごコミュニティ財団

2018 年度  
事業報告書  
(公益第 6 期)

(2018 年 7 月 1 日～2019 年 6 月 30 日)



公益財団法人  
ひょうごコミュニティ財団  
HYOGO COMMUNITY FOUNDATION

# 目 次

<b>1. 概況</b>	<b>2</b>
<b>2. 事業</b>	<b>3</b>
(ア) 説明会・講習会の開催	
(イ) 寄付啓発事業	
(1) ファンドレイジング事業	
(ウ) 市民活動団体への助成事業	
(2) 共感寄付事業	
(3) 「輝け加古川こども基金」事業	
(4) 「真如苑・ひょうご子ども応援基金」事業	
(5) 有園博子基金（新規）	
(6) NPO への助成事業	
(エ) 市民活動活性化につながる基金・財団への支援	
(7) 他の基金等の事務局受託等	
(オ) 調査研究事業	
(8) 調査研究事業	
<b>3. 組織</b>	<b>15</b>
(1) 組織の基盤整備	
(2) 5周年記念事業の開催	
(3) 市民参加の推進（インターン、ボランティアなど）	
<b>4. 決算報告</b>	<b>17</b>
(1) 正味財産増減計算書	
(2) 正味財産増減計算書内訳書	
(3) 貸借対照表	
(4) 財産目録	
(5) 財務諸表に対する注記	
(6) 科目内訳書	
(7) 監査報告	

## ※附属明細書について

2018年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

## 1. 概況

設立6年目となる2018年度は、当財団にとって大きな歩みを踏み出した年となった。遺贈による大型基金（有園博子基金）実施がきっかけとなって、当財団の役割が広く認知される気運が高まった。多くの支援者、関係者のご支援の賜物であり、深く感謝したい。

助成プログラムでは、新規に「有園博子基金」初年度助成を実施したほか、継続中の基金においても工夫改良を重ね、より成果が上がるよう努力を重ねている。

また、ファンドレイズの面では大口のご寄付は好調であるものの、小口寄付や運営寄付、賛助会員の拡充はまだ十分ではない。ようやく情報発信（機関誌）も再開したが、引き続きここにも力を入れていく必要がある。

他方、2年あまり制度設計を注視してきた休眠預金等活用制度だが、現状では当財団のミッションやキャパシティにそぐわない面があると考えざるを得ず、本年は資金分配団体としての応募を見送ることとした。

地域に根ざすコミュニティ財団としての自立・離陸まであと一歩だと確信し、引き続き、地域社会のための助成財団として役割を果たせるよう努力したい。

### (2018 事業計画)

設立5年目の昨年度は、輝け加古川子ども基金など助成プログラムの順調な進展、大型遺贈寄付の実現など、当財団として「離陸」への展望が見えてきた1年であった。本年度もこの方向をいっそう進め、当財団の自立を確かなものにしていく。

第2ステージ（4期目～）に入る輝け加古川子ども基金、新規に設立する有園博子基金、年度末に第2ステージ（同）を迎える真如苑・ひょうご子ども応援基金など、助成プログラムの開発・充実に注力する。

ファンドレイズ面では、引き続き遺贈寄付による基金の実現に努力しつつ、財政的な安定のために賛助会員、当財団への運営寄付の拡大も重視する。これらにより、この1年で民間資金による組織・財政基盤を確立したい。

1年後（2019年夏～秋ごろ）には休眠預金制度の資金分配団体が公募・選考されることになる。本制度が兵庫の地域社会にとって有用な制度となるかどうかは予断を許さないが、もし良い方向に向かう場合は当財団も一定の役割を果たす必要があり、体制強化など準備が必要である。地域の中間支援組織と連携してゆきたい。

設立5年を経て、当財団の真価が問われる1年となる。皆様のご支援、ご協力をお願いしたい。

## 2. 事業

ア 説明会・講習会の開催
--------------

特にこの項目では実施しない。別項目として実施する。

## イ 寄付啓発事業

### (1) ファンドレイジング事業

#### <遺贈寄付について>

1期前の年末（2017年末）に逝去された故有園博子さんの遺贈を当年度に入り受贈した。この遺贈により、後述の冠基金「有園博子基金」を設立した（ウ-（5））。また、100万円規模の遺贈も1件、専門家を通じて受贈し、また遺言書作成も1件あった。大型の遺贈のご相談も続いている。

ご相談者の思いや理念を第一に考えることを基本としてご相談に応じている。

#### ○遺贈関連の実績

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	計
相談件数	2件	3件	13件	11件	29件
うち、遺言書に当財団を贈遺先として書かれた件数	2件	0件	3件	1件	6件
うち、遺言が実行された件数	1件	0件	1件	1件	3件

#### ○遺贈セミナー

2018年12月4日 専門家向けセミナー開催 参加13名  
2019年3月15日 NPO向けセミナー開催 参加14名



専門家向け遺贈セミナー 弁護士、税理士、司法書士、行政書士等参加

#### <寄付つき商品について>

前期に契約いただき、助成基金となった朝日ゴルフ株式会社様（健康器具）、（一社）こうべみのりの公社様（ぶどうジュース）、株式会社夢工房様（栄養計算ソフトウェア）の寄付つき商品を引き続き継続いただいているが、新規成約はなかった。

1. ASAHI-MITSUHASHI 基金 165,500円 「医療+子ども」分野への支援に充当
2. 神戸みのりの公社 118,520円 「子ども」分野への支援に充当
3. 夢工房 60,000円 「子ども」分野への支援に充当



朝日ゴルフ(株)において  
ASAHI・MITSUHASHI 基金目録贈呈式



神戸みのりの公社  
「神戸ワイナリー」

<その他>

助成プログラムの開発、運営、改善に大半の時間を割いているため、小口寄付や運営寄付、賛助会員の拡充に力を入れられておらず、件数、金額ともまだまだ不十分である。

2019年4月に2年振りにニューズレターを発行したが、情報発信および個別の寄付依頼はまだまだ不十分であり、いっそう力を入れていきたい。

(2018 事業計画)

昨年度同様「遺贈寄付」「賛助会員」「小規模冠名基金」「寄付つき商品」を重点的に進める。遺贈寄付については昨年12月に第2回専門家・実務家向け「遺贈セミナー」に続き、本年9月に第2回NPO向け「遺贈セミナー」を開催する。第3回専門家・実務家向け「遺贈セミナー」も12月に開催し専門家・実務家への拡大とともに信託銀行や証券会社など金融機関へのアプローチも展開する。

また、遺贈については、寄付者から「団体を紹介してほしい」というニーズが出てきつつあるため、地域のNPOとの連携取り組みを研究し実施する。

寄付つき商品は朝日ゴルフ用品はじめ3件の契約から拡大すべく企業経営者へのアプローチを強化する。合わせて企業経営者などからの運営寄付や法人会員などの賛助会員拡大のため、ニューズレター、Web、マスコミなどの広報や個別アプローチを計画し実施する。

※財政上は、冠基金よりも財団の運営基盤を支える運営寄付や賛助会員が財務状況の改善には有効であり、こちらの獲得が急務である。

ウ 市民活動団体への助成事業

(2) 共感寄付事業

2017年11月からスタートした第5期共感寄付事業は、2018年12月末まで7団体が実施、うち3団体が12月末で終了し4団体が延長継続、さらに2019年1月に1団体が新規に加わり、年度末時点で合計5団体が寄付募集中である。

第5期の寄付額は2019年6月末まで累計7,486,304円、2018年度中の寄付額は4,898,304円である。

◇寄付募集事業及び寄付募集团体

事業名	団体名	2018年度中の寄付獲得額	累計寄付獲得額	寄付募集期間
ホームレス状態、安定した住居がない方への支援活動	(特活)神戸の冬を支える会	2,128,000円	3,591,000円	2017/11/20 ～2019/12/31
「KOBEにゃんずプロジェクト」(略称:にゃんプロ)	神戸ノラネコTNR実行委員会	572,523円	692,523円	2018/1/1 ～2019/12/31
全ての外国人が安心して暮らせる多文化共生社会実現のために	NGO神戸外国人救援ネット	1,444,500円	1,444,500円	2018/4/1 ～2019/12/31
知的障害者とアーティストによる即興音楽プロジェクト	音遊びの会	215,075円	220,075円	2018/4/13 ～2019/12/31
フリースクールの実践をまとめ必要な人に届けたい	(特活)ふぉーらいふ	434,006円	434,006円	2019/1/31 ～2019/11/30
<b>◆2018年12月末で終了した事業</b>				
100年以上前のドイツ生まれのピアノ イバツハ社のグランドピアノの音色をもう一度!!	(特活)青い家	85,000円	985,000円	2017/11/3 ～2018/12/31
子どもシェルター運営事業	(特活)つなご	52,200円	152,200円	2018/4/1 ～2018/12/31
だれもが参加できるスタジオづくり!～聴く・観るだけのメディアからつながるメディアに～	(特活)エフエムわいわい	0円	0円	2018/7/1 ～2018/12/31
(計)		4,931,304円	7,519,304円	

【第5期選考委員】(変更なし)

委員長 中塚博和氏 ((株)日本政策金融公庫・神戸創業支援センター所長)

委員 小嶋新氏 ((特活)しゃらくインキュベート事業部部長)

委員 橋本正人氏 (兵庫県企画県民部県民生活局局長) ※異動により2019年3月末で退任

委員 藤井洋一氏 ((株)神戸新聞社論説委員)



「神戸の冬を支える会」の炊き出し



「音遊びの会」の即興音楽プロジェクト

(2018 事業計画)

第5期共感寄付事業として「随時募集」の形で再開した。本年12月末まで6団体（6月現在）が寄付募集を実施中、さらに随時募集を継続する。第6期募集については第5期の実施経過を見ながら募集内容などを検討していく。



### (3) 「輝け加古川みらい基金」事業

加古川市在住の篤志家のご寄付により運営している本基金は今期で4年目となり、第2ステージに入った。「男女共同参画」への分野の拡大、複数年助成と伴走支援の導入など、新機軸をいくつか採り入れ、それまでの「輝け加古川こども基金」から名称も変更した。募集・選考のプロセスは例年通りで、2019年2月に選考委員会を開催し助成団体を採択した。

本助成金により、活動が発展、深化している団体がいくつか見られる一方、分野を拓けた割には応募数は伸び悩んだ。次期第5期に向けて、応募の質・量の改善のために、市民活動団体向けセミナーを(特活)シミンズシーズとの共催で2019年6月から9月にかけて4回連続で開催している。第5期は例年より少し早めて2019年9月より募集開始の予定。

また、第3期の中間発表&交流会を11月3日に開催した。



#### 【4期目の募集と選考の流れ】

2018年

- 10月9日 記者発表、募集開始
- 10～12月 説明会、個別相談会を加古川にて実施
- 12月14日 応募締切

2019年

- 2月1日 選考委員会



#### 【助成期間】

- 単年度助成 2019年4月1日～2020年3月31日
- 複数年助成 2019年4月1日～2021年3月31日／  
2022年3月31日

※ただし、複数年助成は該当団体なし。

2018年11月3日(祝)加古川こども基金中間発表&交流会

#### 【応募状況と選考結果】

##### (1) 応募状況

応募団体	基本コース	14団体	※他に、2団体取り下げ
	発展コース	10団体	
	合計	24団体	

##### (2) 選考結果

採択団体	基本コース	11団体	助成額 計	826,000円
	発展コース	6団体	助成額 計	1,902,000円
助成総額	計	2,728,000円		

#### 【選考委員】

- 委員長 吉富志津代 ((特活)多言語センターFACIL 理事長) ※新任
- 委員 井原卓也氏 (BAN-BAN ネットワークス(株) 取締役) ※新任
- 委員 柏木登起氏 ((特活)シミンズシーズ代表理事)
- 委員 勝木洋子氏 (神戸親和女子大学教授)
- 委員 竹内茂雄氏 ((特活)高砂キッズ・スペース事務局長) ※新任
- 委員 吉田実盛氏 (鶴林寺真光院住職)

【協力】

特定非営利活動法人シミズシーズ

【採択団体一覧】

◆基本コース

	団体名	事業名	採択金額
1	チャレンジ・ナビ	ものづくり体験や遊びを通して考え工夫する力を醸成することを目指す	100,000 円
2	(特活)知的障がいを持つ人の余暇活動をサポートする会	障害を持つ人たちのための演劇活動	100,000 円
3	志方 Lovers	行常しあわせの歌フェス 2019	100,000 円
4	加古川マジックアカデミー	こどもの創造性育成事業	100,000 円
5	親子サークル UME	子育て応援・地域活性化	93,000 円
6	じょいふる会	運動支援くらぶ「コーディネート」	62,000 円
7	東播磨ネイチャークラブ	心豊かな子供の育成	61,000 円
8	コミュニティ食堂 よつといで～	コミュニティ食堂 よつといで～	50,000 円
9	高砂ぺんぎん舎	子育て応援コンサート	80,000 円
10	印象工作室	王さん直伝、本格水餃子！&加古川の誇り！	40,000 円
11	加古川野口マジッククラブ	マジック(手品)ショー(ボランティア)	40,000 円

◆発展コース

	団体名	事業名	採択金額	伴走支援
1	(特活)ささゆり会	重度障害児の社会参加支援事業、重度障害児についての研修事業、重度障害児の啓発事業、ピアサポート事業	572,000 円	
2	(特活)One Heart	子ども食堂の発展とNPOの基盤強化へのチャレンジ事業	500,000 円	○
3	ボーイスカウト加古川第5団	集まれ！未来の若者たち。	400,000 円	
4	加古川てらこや	加古川てらこや事業	200,000 円	
5	(一社)加古川音楽療法研究会	～映像と音楽が心に及ぼす影響～②	130,000 円	
6	(特活)日本アニマルセラピー普及協議会	アニマルセラピー活動参加犬のレベルアップと充実及び加古川市立加古川養護学校に於いてのアニマルセラピー活動	100,000 円	

(2018 事業計画)

本年2月、3年間の第1ステージ終了となる第3期助成19団体を決定した。助成対象期間は本年4月から来年3月まで、助成総額は約380万円で第1期約250万円から毎回増額してきた。第2ステージとなる第4期(2018年秋募集)以降の3年計画を策定する。

#### (4) 「真如苑・ひょうご子ども応援基金」事業

3期目となった宗教法人真如苑による「真如苑・ひょうご子ども応援基金」は2018年7月より助成団体募集を開始。2年継続団体1団体を含めて8団体が応募し、10月には2団体と継続1団体へ計100万円の助成を決定した。中間報告交流会は2019年6月5日に開催し、真如苑のご担当者、助成団体3団体及び事務局の合計8名が参加し活発な意見交換と団体の交流を実施した。

第4期（2019年度）以降についても引き続き3ヵ年実施することとなった。テーマも「多文化共生・外国人支援」として2019年7月より規模も拡大して公募を開始する予定である。

##### 【募集と選考の流れ】

2018年

- 7月31日 募集開始
- 8月27日 応募締切
- 10月11日 選考委員会



2019年6月5日第3期「真如苑・ひょうご子ども応援基金の中間報告会」

##### 【助成期間】

- 単年度助成 2018年11月1日～2019年10月31日
- 複数年助成 2017年11月1日～2019年10月31日

##### 【応募状況と採択団体】

- 応募 8団体（2年継続団体1団体含む）
- 採択 3団体（採択総額1,000,000円）

##### 【選考委員】

- 委員長 石田賀奈子氏（立命館大学産業社会学部 准教授）
- 委員 小澤昌甲氏（社会福祉法人神戸YMCA 福祉会 常務理事）
- 委員 曾我智史氏（尼崎駅前法律事務所 弁護士）
- 委員 島田英樹氏（真如苑 社会交流課）

##### 【採択団体一覧】

	受付番号・団体名	事業名	採択金額
1	(特活)いまじん	子どもの貧困・孤立対策のための学習支援事業	250,000円
2	(認定特活)女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ	子ども元気ネットワーク運営及びアンケート調査事業	400,000円
3	(特活)やんちゃんこ	まちの寺子屋・まちの寺子屋スタディ	350,000円
合計			1,000,000円

##### (2018事業計画)

第2期の宗教法人真如苑による冠基金は昨年10月に12団体応募の中から5団体を助成決定し、本年5月には中間報告交流会を実施した。

第3期助成事業は7月から募集開始し、10月には助成団体を決定する。第4期（2019年度に募集）以降については、秋以降真如苑と協議して決めていきたい。

## (5) 有園博子基金 (新規)

2017年12月に逝去された故有園博子さん(兵庫教育大学教授)の遺贈により2018年8月に設立。臨床心理士、精神保健福祉士として、また教育者として、DVや性暴力、犯罪の被害者、虐待された子ども、事故の被害者など、常に深い傷を負った人たちの支援と支援者育成に精力を傾けてこられた故人のご遺志を受け、①DV被害者、②虐待された子ども、③性暴力の被害者、④JR福知山線脱線事故のご遺族の4分野に対する支援もしくは支援のための研究を行う団体・個人を支援する。支援にあたっては、1)多くの機関のまたは分野を超えた連携、2)支援活動そのものと並んで、支援に当たる団体の組織基盤強化や人材育成といった側面、を重視する。

企画委員会を設置し、その議論に沿って初年度の制度設計を進めた。初年度は試行的な実施として、上限50万円の助成プログラムからスタートし、9団体への助成を行った。メインの「活動・研究助成」に加えて、助成先9団体に限定して研修等の人材育成に活用いただく「支援者キャリアアップ助成」も実施、2019年4月には助成先団体、寄付者ご遺族、企画委員・選考委員に集まっていたいただき「キックオフ・ミーティング」を開催した。

2019年秋に募集開始の2年目へ向け、1年目助成先へのヒアリング等のリサーチを進めた。多くの団体で人材の確保と育成、またそれを通じた組織力強化が課題となっており、企画委員会の議論を踏まえて、2年目は規模、対象を拡大し実施する予定である。

### 【企画、募集と選考の流れ】

2018年

10月9日 企画委員会(第1期)

11月9日 募集開始

2019年

1月18日 応募締切

3月8日 選考委員会(第1期)

4月14日 キックオフ・ミーティング

7月7日 企画委員会(第2期)(新年度)



2019年3月8日有園博子基金  
選考委員会・応募団体ヒアリング

【助成期間】2019年4月1日～2020年3月31日

### 【応募状況と採択団体】

応募 11団体

採択 9団体(採択総額4,236,000円)

### 【企画委員】

- 委員長 岩井圭司氏 (兵庫教育大学大学院教授)  
委員 柏木登起氏 ((特活)シミズシーズ代表理事)  
委員 勝木洋子氏 (神戸親和女子大学教授)  
委員 立木茂雄氏 (同志社大学社会学部教授)  
委員 仁科あゆ美氏 (大阪府男女共同参画推進財団理事)  
委員 西部智子氏 (法律事務所ユノ)  
委員 増井香名子氏 (新見公立大学講師)



2019年4月14日有園博子基金  
キックオフ・ミーティング

### 【選考委員】(\*=企画委員と兼任)

委員長 岩井圭司氏 \*

委員 石田賀奈子氏 (立命館大学産業社会学部 准教授)

- 委員 執行照子氏 ((特活)日本フェミニストカウンセリング学会代表理事)  
 委員 仁科あゆ美氏\*  
 委員 西部智子氏 \*  
 委員 三井ハルコ氏 ((特活)市民事務局かわにし理事長)

【採択団体一覧】

	団体名	事業名	採択金額
1	NGO 神戸外国人救援ネット	外国人 DV 被害者助成のための相談活動と自立支援、および支援のための団体基盤強化	500,000 円
2	(特活) Giving Tree	フォスターペアレント支援事業	500,000 円
3	(社福)神戸いのちの電話	「神戸いのちの電話」の相談員を増やし、24時間365日化を実現するための広報活動	500,000 円
	(一社) 神戸ダルクヴィレッジ	虐待された子供と薬物依存症者の関係性の研究及びその回復支援活動の基盤づくり	270,000 円
	(認定特活)女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ	DV 被害助成と子どもの心身回復支援に向けて、人材育成事業	466,000 円
	(特活) 性暴力被害者支援センター・ひょうご	支援員を支援する〜むりなくボランティア活動を継続できるためのサポート体制づくり	500,000 円
	(特活)男女共同参画ネット尼崎	デート DV 予防啓発支援員養成事業	500,000 円
	(特活)フェミニストカウンセリング神戸	法人の世代交代における組織の事業見直しによる基盤強化、事務業務の引継ぎ、および新規スタッフの獲得と既存スタッフの定着に向けた取り組み	500,000 円
	面会交流支援センター ピロティ	子どもの利益となる面会交流などの支援事業	500,000 円
合計			4,236,000 円

(2018 事業計画)

7 月中には有園博子基金運営委員会（仮称）を立ち上げ、事業助成、研究助成、表彰など基金の骨格を決定、10 月からの助成公募開始を目指す。2019 年 4 月から助成事業開始のスケジュール。

## (6) NPO への助成事業

### ◆ASAHI-MITSUHASHI 基金

朝日ゴルフ株式会社様の商品を寄付つき商品としていただき、「ASAHI-MITSUHASHI 基金」として医療関連の支援活動を行う団体への助成に活用した。初年度は 253,640 円（2017 年度収益分）のご寄付から、その約 85%に当たる 210,000 円の助成を公募し、「NPO 起立性調節障害 ピアネット Alice」への助成を決定した。

#### 【企画、募集と選考の流れ】

2018 年

- 8 月 9 日 募集開始
- 9 月 3 日 応募締切
- 9 月 11 日 選考委員会

【助成期間】 2018 年 10 月 1 日～2020 年 9 月 30 日

#### 【応募状況と採択団体】

応募 5 団体

採択 1 団体（採択総額 210,000 円；初年度分として）

NPO 起立性調節障害 ピアネット Alice

「起立性調節障害の正しい理解と対応を県内に広げる勉強会」

#### 【選考委員】（\*＝企画委員と兼任）

委員長 内本理己氏（朝日ゴルフ株式会社 専務取締役）

委員 江口聰氏（認定特活しみん基金・KOBE 事務局長）

委員 河合将生氏（office musubime 代表）



ASAHI・MITSUHASHI 基金目録贈呈式  
においてピアネット Alice へ贈呈

### ◆西日本豪雨災害緊急募金

2018 年 7 月に発災した西日本豪雨災害にあたり、兵庫県内の支援活動支援のために緊急募金を実施し、合計 337,000 円（14 件）のご寄付をお預かりした。

しかし、県内で適時に助成先を見つけることができず、ご寄付者全員に 1) 返金、2) 2018 年の西日本豪雨水害の他の被災地（岡山、広島など）への支援に充当、3) 兵庫県内の他の活動（災害以外）へのご寄付、4) 兵庫県内の今後の災害に備える基金へのご寄付、の中から選んでいた、対応した。

この件はせっかくの善意を募りながらそのご期待に応えることができず、大いに反省するところである。

#### (2018 事業計画)

今年度は寄付付き商品を通じた寄付について、助成を計画する。新たな遺贈寄付による冠基金の可能性も小さくない。



## (7) 他の基金等の事務局受託等

### 【住友ゴム工業 CSR 基金のサポートおよびボランティア情報提供事業】

#### 1) 「住友ゴム工業 CSR 基金」サポート

本事業は、住友ゴム工業株式会社が従業員から募金を募り、その募金と同額を会社が負担するマッチングギフトにより地球環境問題や社会問題解決に向けた多様な CSR 活動を支援するものである。助成先は、ひょうごコミュニティ財団が推薦した団体を同社内部で選考し決める。

2018 年度は計 8 団体を推薦し、全団体が採択された（計 196.6 万円）。

#### 採択団体一覧

助成団体	地域	助成金額	備考
(特活)エフエムわいわい	神戸市	24.6 万円	継続
神戸ノラネコ TNR 実行委員会	神戸市	25 万円	継続
ピアネット Alice	神戸市	25 万円	継続
つみっ庫くらぶ	高砂市	25 万円	継続
(特活)日本ハンザキ研究所	朝来市	25 万円	継続
WARKMATE(ワークメイト)	神戸市	25 万円	
アイの会	加古川市	25 万円	
(特活)ひとまちあーと	たつの市	25 万円	
		196.6 万円	



2019 年 4 月 9 日住友ゴム CSR  
基金目録贈呈式

#### 2) ボランティア情報提供事業

住友ゴム工業株式会社は CSR 活動の一環として、毎月 5 日・6 日（ゴムの日）に同社社員約 1500 名に対し、県内 NPO 活動への参加を促すようなボランティア活動・イベント情報（参加無料、低額のもの）を社内イントラネットで提供している。

ひょうごコミュニティ財団はこうした情報を集約し、提供する業務を受託している。情報集約には、複数のメーリングリスト等により行い、毎月 2~3 件ほどを取りまとめて提供した。より魅力的な情報の収集・提供と、社員参加の促進が課題である。

(2018 事業計画)

引き続き、住友ゴム工業株式会社の CSR 基金等の業務を受託する。

## (8) 調査研究事業

休眠預金等活用制度については、(認定特活)市民活動センター神戸とも連携しつつ、この2年あまり制度設計を注視してきたが、現状では当財団のミッションやキャパシティにそぐわない面があると判断し、本年は資金分配団体としての応募を見送ることとした。引き続き、この制度が地域社会に有益な制度となるかどうか注視し提言も行っていきたい。

市民社会創造ファンドの助成による「市民ファンド推進プログラム」を2018年10月から受給。「助成する力を高める」がテーマのこの助成金は、輝け加古川みらい基金および有園博子基金の制度設計（企画）、運営、評価と改善を支援いただけるものであり、大変有意義であった。2019年9月の助成終了へ向けて、成果の取りまとめを急ぐ。

### (2018 事業計画)

休眠預金については、1年後（2019年夏頃）の制度実施の際に資金分配団体になることもできるよう、体制強化を急ぐとともに情報収集に努める。そのために必要な、県内中間支援組織との連携強化も図る。ただし、最終的に資金分配団体になるかどうかは未確定とする。

体制強化のために、助成金（市民ファンド推進プログラム等）を得て、助成プログラムの開発・改善を行い、それを新規の人材育成にも活用する。



### 3. 組織

#### (1) 役員、評議員、顧問、専門アドバイザー等の状況

##### 【評議員】

今年度は非改選期であり、全員が継続した。

(任期：2016年9月23日～2020年度評議員会終了時)

評議員 加藤恵正	評議員 木田薫	評議員 高士薫
評議員 竹中ナミ	評議員 中田豊一	評議員 早瀬昇
評議員 三野哲治	評議員 三井ハルコ	評議員 井上真二
評議員 中山光子	評議員 室崎益輝	

##### 【理事】

今年度は非改選期であるが、2名の理事を新たに選任した。

理事 小森星児 (代表理事)	理事 実吉威 (代表理事)	
理事 島田雄三 (副代表理事)		
理事 永田譲蔵 (業務執行理事)	理事 藤田精二 (業務執行理事)	
理事 河合将生	理事 武田良彦	理事 田中茂
理事 津久井進	理事 西河紀男	
☆理事 岡村こず恵	☆理事 田中裕子	

(任期：☆の2名は2019年5月9日～2020年度評議員会終了時)

他の理事は2018年9月27日～2020年度評議員会終了時)

##### 【監事】

今年度は非改選期であり、全員が継続した。

(任期：2016年9月23日～2020年度評議員会終了時)

監事 金志煥	監事 柴田真里
--------	---------

##### 【顧問】

顧問 永田萌

##### 【専門アドバイザー】

阿部陽一郎	石田祐	鵜尾雅隆	荻野俊子
川中大輔	行司高博	久戸瀬昭彦	久保幸一
佐藤等史	茶野順子	長沢恵美子	畑本康介
馬場英朗	細谷崇	松井薫	宮崎洋彰
渡辺元			

(敬称略)

## (2) 会議

### 【評議員会】

- 2018年9月27日 定時評議員会（秋毎ビル2階会議室にて）  
出席評議員 11名中7名  
審議事項 1. 2017年度決算案承認の件  
2. 理事選任案承認の件
- 2019年5月9日 臨時評議員会（兵庫県司法書士会館会議室にて）  
出席評議員 11名中9名  
審議事項 1. 役員選任案承認の件  
2. 倫理規程案承認の件  
3. 評議員会規則案承認の件

### 【理事会】

- 2018年9月5日 第26回理事会（秋毎ビル2階会議室にて）  
出席理事 10名中8名（監事2名出席）  
審議事項 1. 2017年度事業報告案承認の件  
2. 2017年度決算案承認の件  
3. 2018年度予算修正案承認の件  
4. 2018年度定時評議員会の日時及び場所並びに目的である事項の決定の件  
5. 役員報酬変更案承認の件
- 2018年10月5日 第27回理事会（みなし決議の方法により開催）  
審議事項 1. 正副代表理事、業務執行理事選定案承認の件
- 2019年2月14日 第28回理事会（秋毎ビル2階会議室にて）  
出席理事 10名中9名（監事2名出席）  
審議事項 1. 休眠預金制度の資金分配団体への応募について
- 2019年4月10日 第29回理事会（秋毎ビル2階会議室にて）  
出席理事 10名中9名（監事1名出席）  
審議事項 1. 臨時評議員会招集の件  
2. 倫理規程案承認の件  
3. 理事会規則案承認の件  
4. 有園博子基金「人材育成助成」事業案承認の件  
5. HSBC Future Skills High Impact Project Fund 事業案承認の件  
6. 役員報酬変更案承認の件  
7. 予算修正案承認の件
- 2019年6月20日 第30回理事会（秋毎ビル2階会議室にて）  
出席理事 12名中8名（監事1名出席）  
審議事項 1. 2018年度事業計画案承認の件  
2. 2018年度予算案承認の件

### 【常務会】

- 2018年7月20日 第28回常務会（秋毎ビル3階当財団事務所にて）  
2018年9月11日 第29回常務会（秋毎ビル3階当財団事務所にて）

2018年12月7日	第30回常務会	(秋毎ビル3階当財団事務所にて)
2019年1月15日	第31回常務会	(秋毎ビル3階当財団事務所にて)
2019年3月1日	第32回常務会	(秋毎ビル3階当財団事務所にて)
2019年4月5日	第33回常務会	(秋毎ビル3階当財団事務所にて)
2019年4月24日	第34回常務会	(秋毎ビル3階当財団事務所にて)
2019年6月7日	第35回常務会	(秋毎ビル3階当財団事務所にて)

### (3) 組織の基盤整備

懸案の職員の採用、育成について、12月に助成プログラム担当者(非常勤)を1名採用し、2019年3月半ばから常勤となった。また、2019年4-6月にも職員募集を実施、7月末から常勤職員を1名採用した。引き続き体制強化に努めてゆく。

### (4) 市民参加の推進(インターン、ボランティアなど)

当法人の活動は裏方的、間接的な面が多分にあり、直接支援の活動に比べてその意義、必要性がどうしても見えづらいきらいがある。次世代の担い手育成のためにも、より参加しやすくその意義や価値を感じていただけるような活動と組織のあり方を推進していく必要がある。

2019年6月から継続的に参加いただけるボランティアは「インターン」と位置づけて、一定の待遇も用意した。既に3名が参加している。

当年度ボランティア、インターンに参加いただいたプログラム及び研修は次のとおり。

- ・「輝け加古川子ども基金」の第3期中間報告会&交流会、第4期選考委員会
- ・「有園博子基金」第1期選考委員会
- ・「共感寄付」第5期団体の取材・広報活動
- ・全国コミュニティ財団協会主催集合研修 等

(2018 事業計画)

#### (1) 組織の基盤整備

常勤職員(主に助成事業担当者)を1名、非常勤職員(事業アシスタント)を1名、採用する。

#### (2) 市民参加の推進(インターン、ボランティアなど)

助成プログラム、フェンドレイズの両面で、引き続きインターンやボランティアなどの市民参加の推進を図る。

(以上)